

印西大師 番外 草深・生大師（大生寺）

1 名称 (No.269)〔資料館：生大師〕〔行程表：生大師〕

2 場所 印西市草深718-2 大生寺(だいしょうじ)

専徳寺から道程約1400m

GPS座標 35.79216567945342, 140.16212897768975

3 由緒 真言宗豊山派 草深山 大生寺

「大生寺は何百年もの歴史や大きく立派な本堂があるお寺ではございませんが、お大師様（弘法大師）を祀る御堂に、三宝大荒神を祀るお社、開祖、生大師様のご入定した窟屋、その他、子育て地蔵、水掛地蔵が祀られているお寺です。現在では『千葉ニュータウン』と呼ばれる場所に明治後期、大正、昭和初期に『生大師』と呼ばれ慕われた開祖、弘海により開かれた寺。その生大師の元へ信者が各地から集い、

信者等と一緒にこの地から高野山に生涯120回もの巡礼を行ったとされております。」

（大生寺HPより）

4 御堂 大きな大師堂の中の正面に御大師様が1体あり。

5 境内 千葉ニュータウン霊園の管理事務所、地蔵堂、銀杏のほか、御堂の北側に開祖弘海（生大師）の窟屋、東側に三宝大荒神社があります。銀杏の黄葉がきれいです。

6 写真 (2023.03撮影)



大師堂



御大師様



御大師様の絵



開祖弘海の窟屋



お地蔵様



三宝大荒神社

7 情報

(1) 生大師（なまだいし）



「生大師の山崎氏は乗馬の名手であった。明治末年、草深原の『大だまり』の周囲に馬場をつくり、草競馬をひらき、千葉・茨城の各地からこれに参加するものが多かったという。大正から昭和の初期にかけ、『生大師』の名声とみに上がり、毎月21日の大師様の日には遠くから参詣するものあとをたたず、昭和2年には弘法大師の尊崇あつかった三宝荒神を大和国より勧請してこれを祭った。これが現在『生大師』の寺院のわきにある『三宝荒神』の社である。生大師山崎氏は弘海と号し、生きながら入定せんとしたが、警察の許すところとはならなかった。

(『草深300年誌』より)」「(「かまがや散歩」HP)

8 関連Web

○大生寺 <https://www.daishouji.info/>